

## 3月11日の大災害について 思いつくままに

小倉 宏平



(おぐら・こうへい)  
医学博士  
ICDフェロー

この度の地震で北茨城地域は大損害を受けましたが、私が開業する南茨城地区（歯科医院、精神神経科病院、メンタルクリニック）は関東平野の中心地であり比較的被害は少ない方で私の病院の大谷石の門柱や塀が倒れたり病室の天井からクーラーが数台おちたりしましたが人員（入院230人、職員160人）の被害はなく又一番心配された給食の方も十分備蓄があり多少献立は変更しましたが流通が元に戻るまで乗り切ることができました。自宅の食器戸棚が前に飛び出しガラス食器が落ちて全滅しましたが歯科診療所の医療機器は全く被害がなく胸をなでおろしました。大型の自家発電設備も順調に作動して120メートルの深井戸からの揚水も無事行えました。さらに被害の大きな地方病院（北茨城）からの入院患者受け入れの要請に応え出来る限り受け入れました。以上が震災直後の私ども病院の状況ですが、娘夫婦が仙台郊外の角田市で産婦人科、麻酔科の医院を開業しておりますがその医院は被害が大きく建物の被害ばかりでなく医療機器が落ちてきた天井の下敷きになり破壊され使用不可能になり水、ガス、電気、下水道が止まり入院患者を抱え自分の医院でも手いっぱいなのに救急医療の援助で道路寸断の中を眠る暇もなく走り回りよく体がもったと不思議に思ったと、申しておりました。

幸い春休みで子供たちが自宅に戻っていたので（娘と息子二人が医大生）水運びや入院患者の身の世話や家の壊れた物の片付けなどで手伝ってくれておお助かりだったそうです。

震災後、薬品の補充もなく、電話がやっと通じ当方としても薬品をはじめ援助物資を送りたくても輸送の手段がなく悔しい思いをしました。こんな時ヘリがあればとも思いました。

その後、私どもの病院でもお預かりした患者様を復旧成った被害地病院に無事お戻しいたしました。又被災後2月近く入院患者の受け入れの出来なかった娘の医院もやっと元に戻り、今年の1月には出産ラッシュで嬉しい悲鳴をあげております。

死に物ぐるいに復旧に向かい働いた半年もあつという間に過ぎ12月に入り落ち着きを取り戻した娘夫婦に、震災時に援助してもらったお礼にと蔵王温泉に私ども両親が招待されました。ライト輝くケヤキ通を抜

けて一夜の宿を共にし苦労話を聞きましたが、人間ド  
ン底に落ちてもやる気さえあれば必ず何事もできると  
自信が持てたと申しておりました。(いまだに下水は  
復旧していないそうです。)

その言葉を聞いて私も被災地の人々と共に年(86  
歳)を忘れて七難八苦を乗り越り復興に協力を続ける  
決心を固めた次第です。被災地の一日も早い立ち直り  
を祈っております。